

西国第三十番 竹生島

御本尊／千手千眼観世音菩薩（観音堂） 開基／行基

真言宗豊山派 宝厳寺

聖観世音菩薩

管主 峰 覺雄

先日、地元のあるご宗派の青年僧の方々が子供たちを引率して参拝下さいました。

観光船が着き、今か、もう起こしになるか、と本堂でお待ちしておりましたが、なかなかおいでにならず、どうなったんだろうと職員と石段を降りてお迎えに向かいました。すると、石段の落葉や小さなゴミを丁寧に拾いながら上がってくる子供たちと出会いました。子供たちの傍を通り抜ける多くの参拝の方々が「お掃除ご苦労様。」「み

んな偉いね。」「ありがとう。」と声を掛けて下さってありがとうございました。

引率の方々にお伺いしますと、その趣旨はお参りだけでなく山内の掃除も行い、ほんの少しでも子供たちに修行することの意味、良い事をして世の中の役に立つことの喜びを体験してほしいとの願いからであるという事でした。

本堂に到着され、元気いっばいの声で、般若心経などのお勤めしてくださいました。いざ、子供たちに住職からひ

とお話をお願いしますとい依頼され、前に立ちますと、キヤッ！キヤッ！声を上げ、笑い声を上げながら掃除をする子供たちの姿が目に見えてまいます。唯々「本堂にありがとう。とっても嬉しかったよ。」と涙が溢れ手を合わせて声を掛けている自分がありました。また、子供たちは皆さんから、「ありがとう」と声を掛けられ、「みんな喜んでくれて、うれしかった。」「ちょっと、照れくさかった。」と目を輝かせて話していました。

布施の行、つまり奉仕の心を持つ事とは、けっして大層な事でも難しい事でもありません。誰でも持つ事が出来ます。いつでも持つ事が出来ます。そしてけっして無理をしてする事でもありません。自分ができる時に、自分が出来る事を見付け、目の前の困っている人が、或いはまだどこかの誰かが、唯々よろんでくれればそれで良いと思ひ、真心を込めて行うことであります。小さな行動であっても、その一人ひとりの真心の輪が広がり、社会全体の幸せに繋がって

いくのだと信じたものです。

「この後、帰りにどこに行くのと子供たちに声を掛けますと、コロナでまだ人数でレストランに入れないので、対岸の公園でお弁当を食べるとの事。一人の女の子が、「お母さんが唐揚げをいっぱい入れてくれやあたんや。私、唐揚げ大好きやねん。」とケラケラと笑って教えてくれ、手を振って帰っていききました。

お寺に秋風の様な清々しい慈悲の心の風が流れていった一日でありました。

